

グループエンカウンター を生かし、生きる力を高 める親子ふれあい合宿

福岡県宮田町立宮田西中学校

ささぐり ひろし

笹栗 洋

【実践の概要】

この研究は、グループエンカウターの技法を取り入れた体験活動（＝生徒・親・教師の3者による「親子ふれあい合宿」）を行うことによって、生徒自ら「生きる力」を高められるようになるであろうことを究明した。

この「親子ふれあい合宿」は、1泊2日の日程で、学年の生徒全員とその保護者、教師が参加し、実施した。

その結果、親と子の意識の変容が見られ、「生きる力」の構成要素を抽出することができた。このことから、生徒自ら「生きる力」を高めたといえる。さらに、この取り組みが本校の特色ある学校づくりの一環として、学校行事（PTA共催）に位置づけられるようになった。内容も一般化され、毎年各学年で実施されている。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

今日においては、ものの豊さに反し、心の貧しさが顕著になり、生徒の生活や心の成長に多大な影響を及ぼしている。即ち、人間関係が希薄になっているため、このことが、不登校、いじめ、ときには少年犯罪につながっている。したがって、21世紀に生きる子どもたちに心が安らぐ場を与え、生徒と教師、子どもと親（大人）という社会的関係ははずして、同じ人間として自由に交流できる場を設定し、信頼を深めることが重要であると考えた。

2 研究仮説

グループエンカウターの技法を生かした3段階の体験活動（後述）を行えば、生徒自ら、「生きる力」が高まるであろう。

3 研究の実際（ねらい、題材、活動内容）

（1）第1段階——心と体を開く・自己表現

活動 「体や心のふれあいをしよう」

ペアやグループ活動を取り入れ、非言語的な活動やロールプレイングを行うことにより、情緒の安定を図ったり、それぞれの立場を共感したりする。

活動 「みんなで将来の夢を語ろう」

事前に行った職場体験や調査活動をもとに、自分のなりたい職業について発表することにより、自分の思いや考えを素直に表現したり、他者の思いや考えを知ったりする。

（2）第2段階——傾聴・比較・自己修正

活動 「親・教師の体験談から学ぼう」

親、教師の体験談を聞くことにより、親や教師の感情体験にふれたり、自分との違いや一致点に気づいたりする。

（3）第3段階——感情交流、自己開示、相互理解

活動 「パーティーをしよう」

食事をしながら、なるべく多くの人と自由交歓を行うことにより、親和感を育てる。

活動 「思いをこめて」

日ごろ口にできない思いをお互いに手紙に書き、素直な思いを伝え合うことにより、親子がお互いの真意にふれる。

4 全体考察——研修後のアンケートより

（1）親の意識の変容

「親が変われば子どもが変わるのですね」と述べられたように、他者受容することにより自己理解が深まることが明らかになった。

（2）「生きる力」の高まり

尊敬、感謝、受容、ふれあう力、学ぶ力、目標、生きる意義などの構成要素が抽出された。

5 具体的な成果

- ・相互理解を促すのに効果的であった。
- ・学校の教育力向上へとつながった。